

SANCHO HIJO,
GUIA...

d u l c i n e a
k a o r i
m u r a j i

kai jünemann photographs

真実は、旅から生まれる——。

村治佳織・写真集

「エル・トボソの町を歩いていると、次第に私もドン・キホーテになりたいと思えてくるのでした。ドン・キホーテの想い姫、いそいでいないドウルシネアを探してみたいという気にさせてくれるのです」

木楽舎
KIRAKUSHA

ソコ classics



©JOSE MANUEL CAÑAS REILLO

Una cena conmemorativa de Cervantes

「ドン・キホーテの食卓。セルバンテスを讃える祝宴」

en El Toboso

24.abril.03

昼間、子供たちと過ごした時間の雰囲気とは違って変わり、夜は、大人たちの集まるパーティをカサ・デ・ラ・トーレで開いた。そのパーティが始まる少し前、パティオ(中庭)で、そのパーティに参加する作曲家に、私の演奏を聴いていただいた。楽譜からの解放、自分にしかできない色彩感、間の取り方、その追求が大事とのアドバイスをしてくださった。

また、地元の音楽大学のモレーノ教授とは、アコーディオン弾きの方とのセッションをした! 100年ものアコーディオンだということで、びっくり。パティオは四方を壁に囲まれて音が気持ち良く響く。私にいくつかのコードを教えてください、ラ・マンチャの地元に受け継がれる民謡と一緒に弾いた。そうしているうちに、パーティの参加者が、次第に集まってきた。20~30人と思っていたが、いやいや、それでは、きかない。50人くらいはいたのでは……? この、エル・トボソでの食事は、忘れない。いつかまた、ここに戻って来ることができたらいいなと思う。